

# 本当に恐ろしかった さぬきうどん6.5

2006年秋季レポート本



K・I・D四国空母化計画推進委員会



# 本当に恐ろしかった さぬきうどん6.5

2006年秋季レポート本



# もくじ

---

- 5 はじめに
- 6 9月23日～行列店を避けてみる～
- 12 9月24日～行列店を避けてみる～
- 18 10月8日～行列店に行ってみる～
- 20 10月9日～行列店に行ってみる～
- 22 あとがき
- 23 奥付

小縣屋レポートマンガ及び写真提供

磨伸映一郎様（んじゃめな本舗 <http://www.jttk.zaq.ne.jp/ndjamina/top.htm>）

写真提供

たけっぴ

編集、本文

双葉・スズキ

## はじめに

どうも、いつもお世話になっております、双葉・スズキです。さて、昨年の讃岐うどんに関して、一番大きなニュースはなんと言っても映画「UDON」の公開でしょう。この本の読者の方にも、映画を見て、彼の地へ足を運ばれた方も居られたと思います。

かくいう私もそのひとりです。よせばいいのに9月の連休に行ってきました。もっとも、行列店を避けるプランを立てておいたおかげで、さほど苦労はしなかったのですが。

せっかくですので、その辺りのことを軽くまとめてみました。また、さらによせばいいのに避けておいた行列店が連休でどうなっているのかも調べに行ってみました。手身近にまとめたので、ほとんど箇条書きの羅列になってしまいましたが、読んでいただければ幸いです。

では、後書きでお会いいたしましょう。



松井製麺所ロケセットそばの立て看板から。  
主演男優と主演女優のサイン。

## 9月23日～行列店を避けてみる～

映画「UDON」が公開された。今の時点でいろいろ伝え聞くところによると興行的にはつらいところもあったようだが、単に映画を見たものとしては、前半のUDONブーム狂想曲の部分では大いに笑い、後半の松井うどんの復活では泣かせていただいた。要するに、個人的には大ヒットだった。そして、映画の便乗なのか、テレ東の元祖でぶやで二週に渡って香川を紹介、ここまでされてたいないのうどん値が下がらないわけがない。同じ状況のたけびの人とつるんでたまたまスケジュールが空いていた有馬さんと磨伸さんを巻き込んで香川行きが決まった。2006年の9月のことである。

そして旅行当日の9月23日の早朝、新大阪を6時過ぎの新幹線で姫路へ。今回の足は「電気鼠の魂名」(勝手に命名)こと、たけび車。先に姫路で合流してから神戸組の待つ三宮へと向かう算段だ。自分が大阪から姫路に向かったのは、一人で一時間近い早朝ドライブは危険だから、と頼まれたからである。幸い、道中何も起こらず一時間弱で三宮に到着。集合場所で少々行き違いはあったが、八時半には四人そろって「UDON」のサントラを聴きながら明石海峡大橋へと向かっていた。

さて、今回の旅行に先立ち、それぞれのリクエストなどを聞いておいたのだが、おおむねまとめると

- ・公開されている松井うどんのロケセットが見たい。
- ・映画で出てきた店にも行きたい。
- ・おみやげにうどんと天ぶらを買っていきたい。

の三点だった。最初のロケセット、これはすでに場所を突き止めているので楽勝である。問題は二つめの映画で出てきた店である。今回の日程は9月23日、24日の祝日による連休、そこに映画を見て香川に来る客が増えているのだから、うかつに山越や宮武のような行列店に行けば間違いなくえらいことになる。だから今回行く店は大きな駐車場のある一般店か、製麺所系でも物理的に行列が出来そうにない店を選んでみた。それでも行列にぶち当たった場合、30分を超えるようなら撤退と決めた。最後の三つ目は、まあ、天ぶらがちょっと難しいかもしれないがどこかの店で何とかなるだろう、と考えることにした。

三宮を出て2時間、意外と縦に長い淡路島を過ぎて徳島入り。そろそろトイレ休憩を、ということになり香川に入ってから最初にある津田の松原SAに入る。ここではトイレ休憩と飲み物の補給程度で終わらせるつもりだったのだが、おみやげコーナーの向こう側に、セルフのうどんコーナーが。ああ、そういえば全店制覇攻略本でも紹介していたなあ、と思っていると有馬さんが突撃。ああ、予定では一軒目は高松だったのに、と思いながらも自分も後に続く。当初、SAのうどんセルフコーナーだからあまり期待しておらず、冷凍うどんを温める程度だろうなと思っていたら、予想を裏切ってちゃんとした玉うどんが用意されていた。トッピングも定番のエビ天やお揚げさんに混じって天然鮎のかき揚げなどがあるのだから結構侮れない。味そのものは普通、といったところだが、下手なセルフに行くことを考えたらずっとよい。ただ、高速に張らなければ食えないのがネックか、と思っていたけれど、後々調べると一般道からも入れるとのこと。なお、ここでは磨伸さんは醤油で、食の細いたけびの人はソフトクリームを食べていました。

予定外の一軒目をあとに西へ向かうこと1時間弱、檀紙ICを降りて高松市街入り。これから向かうのは元祖でぶやで紹介されていた「麺八」。ナンチャンの幼なじ

---

みの店で、名物は関西西仕込みのカレーうどんに親子丼。道中、徳島にいた頃にここを紹介した時、後席の神戸組から一軒目からご飯ものかよ、との声が聞こえたが聞こえなかったことにする。

176号線を北上し、JRの下をくぐって工場や製材所が並び入り組んだ所に入る。すると突き当たりのT字路で先行していたライダーが途方に暮れていた。地図で確認するとそこはうどん屋のはりやさん。若手の大将の営む店と聞いていたが、どうやら祝日はお休みだったらしい。まあ、こんなこともあるわな、と心の中で先ほどのライダーに声をかける。T字路を左に曲がり、ぐねぐねと進むとやがて向かって奥に駐車場のようスペースを持ったプレハブが見えてきた。よし、あそこだ、と車内のテンションがあがるがどうもおかしい。駐車場に車が止まっている気配がないのである。まさか、と思ったらその通りだった。「本日、都合により臨時休業いたします」の張り紙が入り口に。うどん屋巡りしてたら、まあ、こんなこともあるわな。

次に向かったのは綾南町の田村。映画では香助達にうどんの打ち方を教える店である。また、自分たちのうどん本の取材で最初に行った店で、さぬきうどんは今まで食ってきたうどんとはまったく違ったものであると思い知らされた店でもある。しかし、その後はどうしたわけか、なかなか行く機会が無かった。初めての磨伸さんもいることだし、選択肢に入れておいたのである。

17号線を北から入り、峠道を進む。田村はこの峠の頂点にある店である。周りにさほど駐車スペースが無く、17号線自体そこそこ交通量のある道なので路駐が出来にくい店である。しかし、坂道を上がると向かいのGS跡の付近に停めている車が何台か。通行のじゃまにならない程度なのがせめてもの救いか。店を見ると入り口から並び列も道路に届くかどうかといったところ。信号待ちでどうするか考えていたらちょうど出て行く車が一台。とりあえずそこに車停めてから考えることにした。結果、人数は30人程度、これなら30分も待つことはあるまい。それに二軒連続で飛ばしたくなかった。

さて、久しぶりの田村、車で20分ほどの距離に山越があるのでつい比べてしまうのだが、あちらの変わりようと比べるとほとんど変わっていない様に思えた。製麺所の脇の空きスペースにベンチを置いて飲食コーナーが出来たことくらいだろうか。いや、おみやげのボックスうどん置くようにはなったか。そんなことを後ろの有馬さんと話しながら入り口脇のアイスの冷凍庫で甘酒アイスキャンデーなんてものを発見、二人してこれも買う。

うどんにありつけたのは列に並んで20分ほどしてからのこと。自分たちの直前で会計に一万円札を出されたりしなければもっと早かったかもしれない。うどん屋巡りをするときには前もって両替をしておきたいものである。それはさておき、久しぶりの田村のうどんは前と同じく四角く角の立った麺だった。今日一杯目のたけびの人は「このうどん食べたのもううれしいけど、映画見てからいりこのダシを食いたくて食いたくて」と感慨にふけていた。なお、有馬さんと買った甘酒アイス、これが見事に酒粕で造ったちょっと酒臭い甘酒そのものの味だった。

次に向かったのは丸亀にある「UDON」の松井うどんロケセット。ロケセットそのものについての細かい説明はあえて避けるが、土日には映画のグッズ販売所と丸亀市のボランティアによる炊き出しなどが行われるようになり、当然のことなが

## 9月23日～行列店を避けてみる～

らそこにはうどんも。

予定には入れていなかったが、当然のごとくみんなで一杯ずついただいた。本職の大将ではなく、ボランティアのじいちゃん達が打ったうどんなので、さっきの田村のうどんとはまったく正反対で、コシがどうだとか言うべきではないうどんのだが、なぜか不思議と、うまい。ため池のほとりで、さぬき富士を見ながらそういえばカマボコのつけたうどんって香川で見るの珍しいなあ、とか考えながら食った。

次に向かったのは丸亀から40分ほど車を走らせた三木町の松井うどん。映画にて味が落ちた店として出てきた店であり、本広監督の弟さんが営む店である。いや、営むと言うよりも監督が映画のために弟さんに開業させた店というのが正しい。何でもインタビューなどによると撮影に先立ちうどん屋営業のノウハウなど調べたる必要があったが、そういうのは営業秘密だったりして教えてくれないだろうから弟さんに開業させたらしい。もっとも、香川のうどん屋の大将達は非常にオープンで、聞いたら何でも教えてくれたそうなそんな経緯で誕生した松井うどんの看板メニューはだしが入っていない、福神漬けがのせられた本格派カレールーのみのカレーうどん。うどんを食い終わったら残ったルーに追加のターメリックライスを入れてカレーライスと二回味わえるのがうれしい。あいにく、この日はターメリックライスが二つしか残っていなかったので半分ずつにしたのだけれど、まったく問題なし。また、カレー以外にもたくさんメニューがあるので是非、もう一度来てみたい。

次に向かったのは普通寺。ここは「UDON」の前に本広監督が取った「サマータイムマシンプルース」の撮影がされたところ。メイン舞台である大学構内は事前に申請が必要だったので入れなかったが、普通寺をお参りしたり、オアシス銭湯を見つけたり。今思うと「映画館」を見つけられなかったのは悔しい。まさか銭湯跡だったとは。また、陸自の駐屯地で展示されていた戦車や装甲車などを間近に見られたのも収穫。写真を見たり田宮のプラモを作ったことはあったけれど、どうもリアルな感覚で戦車の大きさというものを理解できていなかった。なるほど、ぎりぎり一車線分といったところか。

一時間半ほど普通寺をぶらぶらしたあとで、次の店に向かう。目指すは宇多津のおか泉。うどん本6の取材で行ったとき、ここの天ぶらの味が忘れられなかったからである。あんなにうまい天ぶらは山田屋以来だった。あと、てっきり映画にも当然出ていたと思ったんだけど、パンフを見返すとどうも出ていなかったらしい。

裏の第二駐車場に車を停めて入り口に廻ると入り口から10人ほどの入店待ちが。この程度なら許容範囲なので店員さんからもらったメニューを見ながら待つ。冷えた麦茶が入ったクーラーが用意されているのがうれしい。席に着いてからの注文になったが、おでんを一串ずつ食ったところでやって来た。もちろん、頼んだのは4人とも冷天おろしである。やはりエビ天は揚げたてを貪るに限る。また、持ってきた超麺通団3でこのおみやげうどんを絶賛していたのでそれぞれのおみやげうどん、そしてだし醤油のボトル(小)を買っていった。

この日に予定していたうどん屋はすべて廻ったので、このあとは高松に向かい湯あそびひろばで一風呂浴びてから宿にチェックインするだけ、なのだがの前にもう一軒、骨付鶏の一鶴、太田店だ。一応、映画で香川に帰ってきてきた香助と旧友たちが骨付き鶏を食っていた(丸亀店だが)というのもあるが、何よりも元祖でぶや！

---

にて藤岡隊長が「漢なら肉を食え！」と言っていたのだから仕方がない。隊長の命令は絶対だ。

居酒屋を予想していたのだが、どちらかという店の雰囲気は小ぎれいな焼き肉屋と言ったところ、だからこの日は家族連れが多くて順番待ちの名簿では30分待ち。この間に明日の準備のため、たけびの人を残して向かいのマルナカへ買い物を買済ませる。思ったよりも早く呼び出しが来て、ちょっとあわてたが。

メニューを開くとメインの骨付き鶏のおやどりとひなどり、それ以外のご飯ものと枝豆などの一品が少々と非常にシンプル。何だろう、焼き肉屋から肉が消えてそこに骨付鶏が居座った様なものか？頼んだのはおそらく、控えめな大きさであるうひなどりとおにぎりを4人前ずつ、ドライバーのたけびの人と交代要員の有馬さんはウーロン茶で磨伸さんが熱燗、自分が大ジョッキ。焼き上がるまでのしのぎに枝豆も頼んだが10分も待たずに銀の皿の上で湯気を発する骨付鶏がやってきた。

さっきから骨付鶏骨付鶏と言っているが、要は鶏のもも肉の焼いたんである。味付けは塩、こしょう、ニンニクと非常にシンプル。だが、これがすさまじくワイルドかつスパイシーで、言うまでもなくビールが進む。大ジョッキを空けて中ジョッキを追加してしまった。立場上飲めなかった二人には悪いが、右手に骨付鶏、左手に大ジョッキの自分は最強だったと思う。マンガに出てくる原始肉を一度食べてみたかったというあなた、是非おすすめ。せつくなので、このおいしさをお福分けしようと紅井さんへ写メールをおくったら、「鶏に呪われるがいい」と返ってきた。あー、鶏うめえー。

一鶴を出たあとさすがに腹が厳しくなったので向かいのマルナカのフードコートで30分ほど休憩して今度こそチェックイン。ちょうど香川を特集しているアド街が放送していたのでそれを見たあと、DVDに録画しておいた元祖でぶや！を見る。両方で紹介されていた小縣屋に生醤油好きの磨伸さんが反応、これまでなぜか行っていなかった定番の店でもあるので明日の予定に組み入れる。そのあとは有馬さんの持ち込んだアメリカのカードゲーム、「ゾンビーズ！」で遊んで解散。ビールが廻ってきたのか、意識が半分ゾンビが徘徊するアメリカの地方都市ではなく、夢の国に居たので言うまでもなくドベだった。

部屋の都合上、一人シングルで寝たのだが、入り口のセンサーがおかしくなっていたようで明かりがつきっぱなしなのは参った。備え付けのバスタオルで明かりを隠そうとしてながら、俺は「玄人のひとりごと」の南倍南か、と一人ツッコミして、結局あきらめて寝た。

# 9月23日～行列店を避けてみる～



田村行列。結構ゆるゆるな行列だった。



松井製麺所ロケセットと、地元ボランティアのバザーのテント。うどん以外にはかき氷やドーナツなんかも。



松井うどんの店構え。小さなお店です。2月に移転されるそうで、1月14日で一度お店を閉めておられます。



うどん太郎と田村のうどん。おあげさんが40円というのも嬉しい。



うどん太郎とバザーのうどん。中身が見えにくくてすいません。かまぼこの薄切り入ってます。



うどん太郎と松井のカレーうどん。白黒でわかりにくいですが、赤い福神漬け入り。



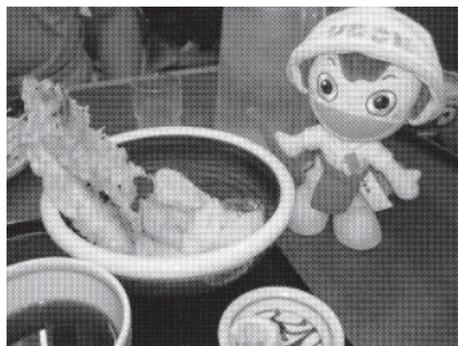
陸上自衛隊善通寺駐屯地の展示車両。億にはへりにジェット戦闘機も。



サマータイムマシンブルースではオアシス銭湯。「オレのビダルサスーン返せ！」



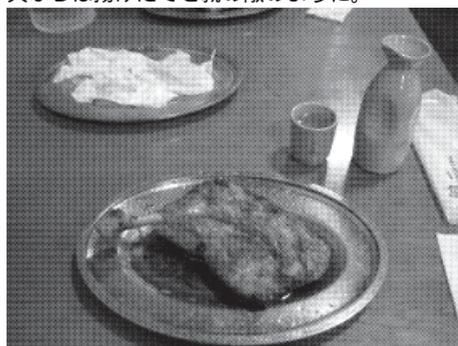
おか泉入り口。外観は表紙を。もうあと5人くらい後ろに並んでいました。



うどん太郎とおか泉のひやおろし天うどん。天ぶらは揚げたてを親の敵のように。



骨付鶏一鶴太田店外観。この日もほぼ満員。



骨付鶏(若鶏)。骨のところを手づかみで、ワールドに頂きたい。

## 9月24日～行列店を避けてみる～

7時半、たけびの人からの電話で起床。結局入り口の明かりは気にならなかったようだ。ポウケンジャーを見終わってからチェックアウト。向かうは詫間町の道久製麺所。映画ではビニール袋でうどんを食う客が居る店であり、うどん本6で黄金色のうどんと絶賛した店でもある。昨日おか泉でだし醤油を買ったのも、一鶴向かいのマルナカで買い物をしたのもこのためである。開店よりも早く着いてしまったので、一度ヤマザキデイリーまで戻って時間調整、気を取り直して再度来店。しかしながら、戸には本日休業の板が掛けられている。あら、間違えた？でもさっきどんぶり持った先客がいたぞ？

とまどいながら戸を開けるとそこには前と同じくうどんをせいろに並べるおばちゃんの姿が。今日は食べられますか、と聞いてみると食べられますよ、との返事あわてて荷物を取りに行く。話を聞いてみると今日は近くで行われている運動会へうどんを大量に卸さなければならなかったとのこと。どうやらさっきの板はしまい忘れたかどうかしていたようだ。一杯目はひやに醤油でいただき、二杯目は器を変えてうどん本6で暮下がやったように釜から上がったうどんをそのまま何も付けずに、いただいてみた。これがうまかった。うどんに絡んでいるゆで汁だけでも十分に塩味がついていて、そしてうどんそのものからは小麦のほのかに甘い香りが。すごい、ここのは本当に調味料が何にもいらんぞ、と感激していたらうどんとうどんがくっつき始めて、あわてて醤油を二三滴垂らす。本当の釜揚げを食するのはスピード勝負の模様。

今回初めての有馬さんと磨伸さんにもこのうどんは喜んでいただけた模様。有馬さんは前回の取材旅行には諸事情によりこられず、レポート漫画を書いた鉄さんからことあるごとに黄金色のうどんが、と自慢されていたようで、これではアドバンテージはなくなったぜ！とのこと。一方の磨伸さんはというと、このあとの車内で、アルプスのお姫様が朝一番に食うようなうどんっていうのはあんなうどんのなのだろうなあ、と賞賛したり、あのうどんが卸された運動会探してみようぜ、言い出したりとあのうどんが気に入った模様。たぶん、このあとの予定がなければ10杯ぐらい行ってたんじゃないかしら。しかし、なぜアルプスのお姫様？

次に向かったのは満濃町の、昨日テレビで紹介されていた小縣屋。映画では小泉ジュニアが醤油を一瓶あけるまでどぼどぼと注いで辛そうに食っていた店。また生醤油うどんを商標登録している店でもある。生醤油の元祖の店と言うだけあって、店の大きさは大きい。バスが止められる駐車場が二面もあるほどである。11時半頃についたのだが、すでに店の入り口脇のベンチでたばこを吸っている集団が。こんな時間から入店待ちなのかと思ったら、単に喫煙所でたばこを吸っている団体さんだった。店にはいとテーブル席が一杯だったので、個室の座敷に案内された。2テーブル設けた東屋になっていて結構いい感じ。せっかくなので、ここからのレポートは磨伸さんに漫画で描いていただきました。次のページからどうぞ！



## 9月24日～行列店を避けてみる～

琴平経由で普通寺へと向かう。琴平といえば、小縣屋へ向かったときに宮武の前を通ったのだが、言うまでもなく行列だった。GWは大将が体がつらいから、11連休を取っていたが、今日は大丈夫だろうか。それに、改めてみて思ったのだが、あそこの行列はそれなりの交通量のある47号線の道ばたに並ぶのでちょっと危ないのじゃないのかとも。つくづく行列店というものは行列が出来てはいけないところに発生しているものか。車中、紅井さんから小縣屋で送った写メールの返事が来た。「大根に呪われるがいい」。次は何に呪われればいいのか。

本日3軒目の店は長田in香の香。映画では氷川、もとい大学生の青木が車をスピンターンで停めたあと「ようやく食べられますねえ」と決めて見るも最後のたらいうどんを目にしながらかみ切れで食えない店である。当然ここではみんなであらいうどんの小をいただく。席は前回と同じく中庭の石のテーブルで。また、超麵通団3にて「この炊き込みご飯は釜揚げのだしで炊いているのでうまい」と勧められていたので是非食いたかったのだが、あいにくこの日用意されていたのはたこ飯だった。これはこれでうまかったんだけど。

しかし、消化を促進するべく、小縣屋にて大根を大量に摂取したが、さすがに昨日あれだけ食って、今日は2時間で3軒廻るというペースがまずかったのか、そろそろみんなのペースが落ちてきた。そこで次の店に向かう前に一度丸亀郊外のマルナカで休憩と軍資金の追加を。コンビニで気軽に卸せると思ったのだが、ここまでATMが置いてあるコンビニが見つからなかったのだ。いや、ところどころにJAのATMなんかがあったんだけど日曜は動いてなかったのである。店内一周したあとでフードコートに落ち着く。食休めの為に入ったというのに、それぞれソフトクリームやらクレープなどの甘いものに手を出すのは別腹というやつか。そんな時、紅井さんから電話が。今度はソフトクリームに呪われると言うのかと思ったら、来週家族で松山方面に出るので、途中香川で食っていけるうどん屋はないか、とのこと。先ほど行った長田in香の香をお勧めしておく。一息ついたところで最後の店、丸亀の寿美屋へ。途中、洋服の青山とはるやまが隣同士並ぶところを通る。しかも青山は二店舗並んでいたようだが、それぞれうまくやっていたのだろうか。

最後に向かったのは丸亀の寿美屋。映画には出ていないが、娑婆羅うどんとタマネギのおでんはここでしか食べられない。1時過ぎについたが、店内はほぼ満員。入れ違いに板張りの座敷でテーブルが一つあいたのでそちらに案内される。クーラーの真下なのはちょっと辛かった。この店が初めての磨伸さんは店の内装や高坪形の湯飲みなどに興味を引かれた模様。さすがにたけびの人は腹の限界が来ていたので、卵とじうどんにして、あとの三人は娑婆羅うどんを。大きな牛肉とシャキシャキの水菜はボリューム満点だった。しかし、三人とも自分の腹具合を忘れていたような。何とか、腹に押し込める。ここのところ、最後にごつりいただく店を選んでしまって苦労しているような。早くこのパターンから脱却しないと。

2時前、予定していた店をすべて廻ったのであとは帰るだけである。坂出インターから瀬戸大橋に入り、途中与島SAに入って休憩をとる。陽当たりのいい丘があったので、009のエンディングよろしく、みんなで芝の上で横になって小一時間ほど昼寝する。これが非常に心地よかった。スッキリしたところで再び出発。途中、吉備SAでドライバー交代して、姫路にて解散。全体をとしてみれば最初のもくろみ通り、大して待つこともなければ大したトラブルもなく(ああ、部屋の明か

---

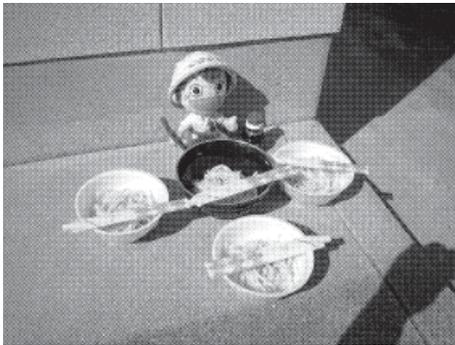
りのことがあったか、快適で順調な旅だった。取材となどが関係ないプライベートのうどん旅行ならいつもこうありがたいものである。



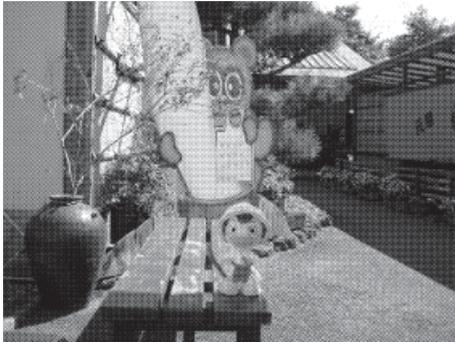
# 9月24日 ～行列店を避けてみる～



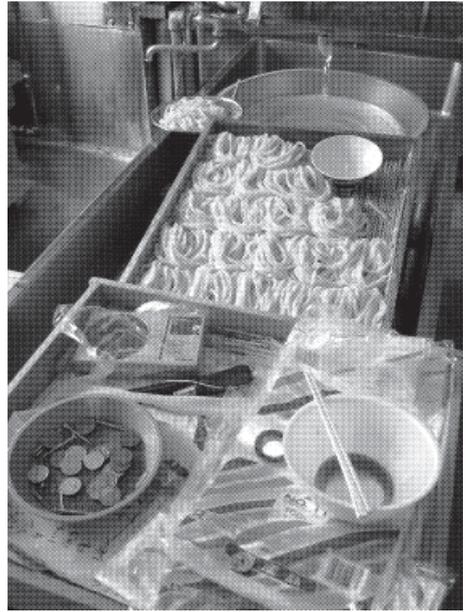
道久製麺所外観。軽トラに乗り込もうとしているのは大将。



道久のうどんに囲まれるうどん太郎。  
ありまさんはどんぶりを持参。あついのいただくなら是非そうしたい。ホントに熱いから。



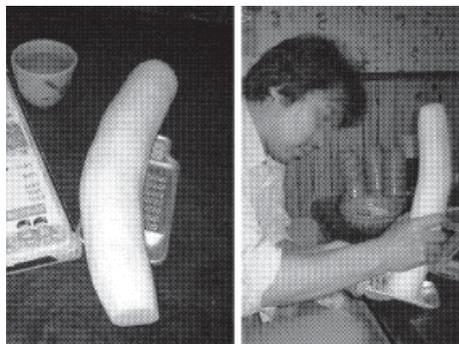
小縣屋入り口前。どうやらこのタヌキがマスコットらしい。



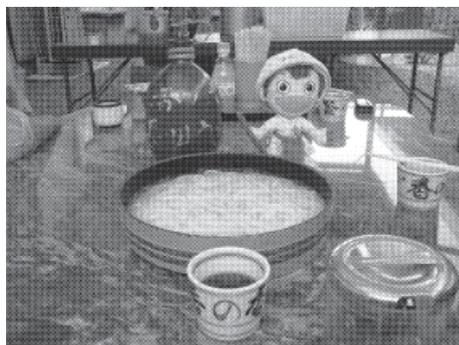
せいろに並べられた黄金色のうどん玉。  
お代は手前のさらに、65円也



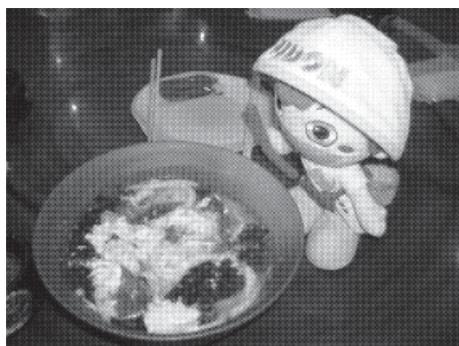
小縣屋メニュー。大根アイスに大根井…。



小縣屋の大根。力の限り、さあ、おろせ。



うどん太郎と長田 i n 香の香のたらいうどん。  
6玉入りで、4人で丁度いいくらいでした。



うどん太郎と寿美屋の卵とじうどん。  
婆娑羅うどんは以前にも乗せたので、こちらを。



長田 i n 香の香外観。スピントーン禁止。



寿美屋外観。あいかわらず、カエルだらけでした。

# 10月8日～行列店に行ってみる～

前回のうどん旅行から二週間の10月8日、再び西へと走る新幹線に乗る自分がいた。今度は一人で、愛車である折りたたみ自転車とともに一人で香川を回る旅である。二週間前は連休においても行列を回避してスムーズなうどん屋巡りだったが、一つ疑問がわいたのである。なら、連休の行列店はどうだったのかと。さすがに、突然の酔狂な思いつきにつきあわせることが出来なかったのが今回は一人旅である。

岡山で乗り換え特急いしづちで丸亀まで。普段使わない特急のおかげで8時過ぎに四国入りだ。駅前で自転車を展開し、最初の目的地なかもむらに向かう。映画で香助がネギを根っこごと掘り返していた店だ。土器川沿いを南下し、高松自動車道をくぐったところで絶句した。時間は9時15分前、すなわち開店15分前だというのに土器川の土手には路上駐車列が出ていたのである。あきれながら見ていると稲庭うどんからの刺客が、秋田ナンバーを発見、これまで見た中で最遠地のナンバーである。これを超すなら北海道のナンバーしかあるまい。

土手から店の方を見下ろすとネギ畑まで続く行列が。時間は開店10分前のことである。行列の先、以前目印のドラム缶が置いてあった方の入り口はカラーコーンが置かれ、進入禁止となっていた。さすがにここまで人が来るようになったら狭いあちらの入り口から入るわけにはいかないのだろう。そして、土手の道には続々と増える路駐の列。それを裁く警備員さんの中に山越で見知った顔があったので話を伺うと軽く1時間は待つとのこと。さすがに食う気を無くしたので写真を撮るだけにして次の目的地、谷川米穀店を目指す。映画で白バイ隊員に「うどん屋を探すなら煙突を探せ」とアドバイスを受けた店である。距離は24キロ、山道であることを考えると2時間といったところか？この間の連休では開店前に蕎麦切れ閉店したと言うが、それに間に合うだろうか？

438号線を南下、まんのう町に入ると視界の両側に山並みが続く。時折右側を熊本ナンバーや神戸ナンバーの車が通りすぎていく。おそらく、目的地は同じだろう。そろそろ花畑の入口が近づいてきたとき、突如ジャンジャン鳴る銅鑼の音が。秋祭りらしく、民家の軒先で獅子舞が舞っていた。あとで調べたところ一軒一軒廻るのが習わしだそう。さらに進み、自販機を見つけたので水分補給をしていると坂を下っていく見覚えのある熊本ナンバーの車が。さっき3分ほど前に追い抜いていた車じゃないか、あれは。まさか、と思ったが、そのまさかを確認するために谷川まで行かねばならない。気を取り直してペダルをこぐ。

時刻は11時5分前、何とか開店前に到着である。さて、どれだけ並んでいるものか、それとも開店前蕎麦切れか？と思ったら行列は皆無。路駐も、いることはいるがちらほらと。人の語気を観察すると店への降り口の前に置かれた椅子を見て明らかに落胆している模様。それもそのはず、谷川製麺所は臨時休業だったのだ。無理もない。帰り道、ここまで来たついでに香助達が初めて発見した店、三嶋製麺所へ行ってみると、こちらも臨時休業だった。あの映画のあと、この店に何があったのだろうか。ここまで来てうどんが食べないのは悔しいので、花畑に入ったらこちらが行列店になっていた。往路では全然車が停まっていなかったのに。上の二軒の臨時休業に落胆した客がそのままこちに流れているのは明白だった。

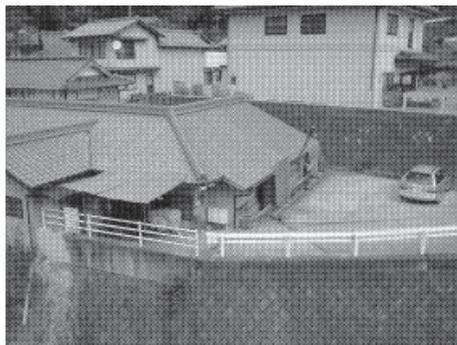
新規開拓の峠道を通って次に向かったのは綾上の山越。今日は定休日だが、嵐の前の静けさというものを撮っておきたかったのだ。途中公衆浴場で休憩がてらに汗流し、2時間かけて定休日の山越に到着。当然のことながら路駐もなければ行列

もない。なのに、本日定休日の看板を見て引き返していく車が県内、県外ナンバーを問わず5分おきに来てするのはどういうことか。今の今までうどん屋巡りをするなら最低限ガイドブックなどで場所と定休日くらいは確認すると思っていたのだが。正直、この光景には笑うしかなかった。あ、いや、自分も昔三徳でやっちゃったことがあるんだから人のことは笑えまい。

このあとはレオマワールドで展示されている映画のセットや衣装を見に行き、宮井家の松井製麺所ロケセットで看板にかかれた監督のサインを確認し、丸亀の宮武書店まで行ったあと、電車で宿を予約した高松まで移動、晩飯食って寝た。この日、食ったのは山越に行く前にたまたま見つけた某うどん屋でぶっかけを一杯だけ。あまり旨くなかったのは疲れていたせいなのか。



なかむら行列。  
開店10分前に土手の駐車場から。



谷川米穀店外観、11時5分前に対岸の道路から。



谷川米穀店より、臨時休業のお知らせ。  
学校のパイプ椅子？



レオマワールドの「UDON展」の立て看板から。  
かんとく、何書いてるんですか(笑)

# 10月9日～行列店に行ってみる～

寝過ぎて7時半頃に起床、あわてて琴電栗林駅まで走り、そこから陶駅まで琴電で。開店前に山越についておきたかったのだが、到着したのは9時半過ぎ、すでに車の列と第一駐車場までの行列が。待ち時間は1時間半ぐらいか。警備員の方針としては路駐でなくするために峠川の道で折り返させて、アイドリングさせたまま駐車場の空きを待たせることにしたようだが、峠のコーナーを過ぎればそこは無法地帯だった。周辺を回ってまずいな、と思ったのが公民館前の駐車場や小学校脇の空きスペースにロープを張られて山越の駐車お断りになっていたこと。そろそろ周辺の反発が目に見えてきたようだ。パトカーがやってきて、路駐に対する注意呼びかけているというのに向かいの和菓子屋の前に停める大型バンを見ると、末期的なものを感じずにはいられなかった。

再び琴電に乗り高松市内に戻り、池上まで走る。11時前に到着、何とか営業時間内である。周辺の反発という点ではここは山越の先に行く。マルナカと側道入口の駐車お断りの看板は以前にも見たが、向かいの田んぼに「私有地につき立ち入り禁止」と赤文字で書かれたトタン板の壁が痛々しい。おそらく、何も考えず立ち入った馬鹿がいるのだろう。入店待ちの行列は途中で曲がって、土手に届くか届かないかと言うところまで来ていた。山越やなかむらと比べると空きスペースがないので、つくづく行列が出来てはいけない場所に行列ができてしまったのだと実感する。土手の道では近所のおじさんが河原の空き地へ車を誘導していた。おそらく、そうせざるを得ないのだろう。マルヨシでお茶とエネルギー源によかんを買って、JR香西駅へ。遠回りして麺八のリベンジを図ったが、この日も臨時休業だった。

JRに乗り、鴨川で降りる。このまま琴平へ向かうつもりだったが途中がもうのことを思いだし降りてしまったのである。映画ではうどんブームが始まった頃にちらりと出たくらいだったが、現実ではすごい行列店なのだが、大きな道路に面していない分路上駐車の影響をもちに受けてしまうわけで、この年のGWではとうとう迷惑駐車に対すとうとう警察への通報で営業を早々と打ち切る、という事件まで起こってしまった。この連休ではどうしているのか、見ておく必要があるように思えた。思えたのだが…。現実はあるさりとしたもので、がもうは臨時休業だった。帰り道、入ってくるそれっぽい車に向けて腕でバツテンを示す自分がいた。

気を取り直して鴨川に戻り、丸亀から特急いしづちに乗って当初の目的地である琴平へ。最後の予定地は宮武だ。映画では三角食への客がいる店というだけでとして登場しただけだったが、実は本広監督はこの大将にベタ惚れで、香助の親父のモデルはこの大将である。なるほど、うどんを包丁で手切りしていたわけである。…今思うとすごいな、数をさばかねばならない製麺所なのに手切りなんて。

乗り継ぎやらなんやらで時間を食って、宮武についたのは2時前。昼のピークを過ぎたところで行列のレポートにはなりにくいか、と思ったが心配無用だった。宮武駐車場の看板に掲げられたのがもうに続いてまたもや「本日休業」の四文字。そういえばGWの時も体調の都合とかで11連休やっていたか。しかし、昨日今日と合わせて6軒の行列店を回ったわけだが、その半分の3軒が臨時休業という有様に9月の連休での人手がどれだけすごかったのかを物語っているように思える。どこの店の大将も無理して体を壊すようなことがなければいいのだが。

このあとは再び善通寺に向かいもう一度サマータイムマシンプルースの撮影場所を回って、元は銭湯だった映画館を発見するが、松井うどんは見つけられなかった。

聞いた話だと現役の薬局を映画のスタッフがうどん屋に仕立て上げたとのこと。それは見つからんはずだ。3時過ぎ、善通寺から電車に乗って丸亀まで移動、もう一度松井製麺所口ケセットに行ったりして6時前の岡山行きのおいしづちに乗って四国を去る。

結局この日は一杯もうどんを食えず。帰りのこだまの中で、丸亀駅で買った駅弁、お遍路さん弁当とあなご飯を帰りのこだまの中で食う。ああ、四国の食べ物はおいしいなあ。うどんが食えなかったくらい、悔しくなんかないやい。



山越行列、9時45分頃十字路から。  
本文中より最後尾がのびている。



池上の行列を土手から。  
最後尾はさらに3mほど。



がもうどんより、臨時休業のお知らせ。  
張り紙には10月16日に振替営業とのこと。



2時過ぎに宮武の駐車場にて、臨時休業の看板  
に途方に暮れる人々。

## あとがき

どうも、ここまで読んでいただきありがとうございました。双葉・スズキです。やたらとうどん太郎が写真に出ておりますが、当初の予定では私がキャプテンUDONを、たけびの人がうどん太郎を現地の写真に納めるはずでした。なら、なぜキャプテンが写っていないかという、持って行くには持って行ったのですが、何かと小物が多くて無理でした。今後、キャプテンにはイベントで頑張ってもらいたいです。

あと、本当を言うと、この本は11月の東京コミティアで出ているはずでした。もうちょっと量産できるように体をならせておこうというもろみだったのですが、あえなく崩れました。急なお願いをしたのに原稿を間に合わせていただいた磨伸さん、すみませんでした。

さて、次は夏に出すうどん本の7についてですが、現在その方針について検討中です。現段階で決まっているのは小縣屋が取材ルートに入っていて、今回の磨伸さんの原稿が再録されるということだけです。あとは、まあ漠然とうどん以外のことも取り上げられないかと。いや、ここのところせっかく香川まで行ってのだから、うどんだけで済ませるのはもったいないかな、と思うようになりまして。ちという調べてみたいと思います。

では、次の本でお会いしましょう。

2007/01/21

双葉・スズキ



本当に恐ろしかったさぬきうどん 6.5

発行元

K・I・D

印刷

双葉・スズキ個人所有レーザープリンタ

発行日

2007/01/21

連絡先

e-mail:kidinf@www112.sakura.ne.jp

<http://www112.sakura.ne.jp/~kidinf/>

今回の本の発行に際して以下の文献、  
HPサイトを参考にさせていただきました。

さぬきうどん全店制覇攻略本 2005年度版  
株式会社ホットカプセル

なお、この本の内容は予告無しで変更される事があります。  
その旨、御了承下さい。

